令和 3 年 3 月 16 日　作成　宮坂 泰弘
令和 3 年 4 月 14 日　修正　平　義隆

2021 年 3 月 15 日ビーム物理領域インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）議事録

日時：2021 年 3 月 15 日（月）　17:30 - 19:10
会場：zoom

出席者（順不同・敬称略）：27 名
鷲尾 方一, 栗木 雅夫, 羽島 良一, 金田 健一, 原田 寛之, 山本 尚人, 大谷 将士,
近藤 康太郎, 神門 正城, 大塚 崇光, 全 炳俊, 坂上 和之, リプタック ザカリー, 郭 磊,
保坂 将人, 宮本 修治, 北村 遼, 佐藤 政則, 井上 峻介, 松門 宏治, 平 義隆, 宮坂 泰弘,

司会：平 義隆
書紀：宮坂 泰弘, 大谷 将士

配布資料
2021S-1.pdf：前回議事録
20210315_BeamWakate.pdf：ビーム物理研究会・若手の会～2020 年度活動報告～
Web サーバセキュリティインシデント_20210315.pdf：Web サーバの現状について
2021 春インフォーマルミーティング資料.pdf：　議事内容

議事内容
1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
    2-1. 日本物理学会ビーム物理領域
    2-2. ビーム物理研究会関連
    2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
    3-1. 次回の総会・拡大幹事会

1. 前回議事録確認（資料 2020S-1）

2021 年 8 月 6 日に開催されたビーム物理研究会拡大幹事会の議事録（配布資料 2021S-1）について内容確認が行われた。事前にメールで配布されたため内容の読み合わせは省略した。意見・コメントは無く議事録として承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域

[大会関連]

一般講演について

一般講演の件数および内訳についての報告があった. 第 75 回年次大会 (2020 年春) の講演件数は 87 件 (合同分を除くと 63 件) であった. 第 76 回年次大会 (2021 年春) の講演件数は 111 件 (合同分を除くと 69) であった. その内, 一般講演 50 件、合同一般講演 8 件、主催企画講演 2 件、合同企画講演 4 件、主催シンポジウムが 2 件で 15 講演, 他領域主催合同シンポジウムが 3 件で 26 講演, 若手奨励賞受賞記念 2 講演、他領域 3 講演、他領域主催招待講演 1 件であった.

若手奨励賞受賞者数の上限について、「占有率(%) × 0.31 + 1」を四捨五入した値で決定されること、直近過去 3 年の占有率は 2.46%で占有率が 1.6%以下（75 件以下）になると上限数が 1 になることが報告された。

.

一般講演件数の推移について

今年次大会 (2021 年春) の講演数を含む過去 14 年間における日本物理学会年次大会での一般講演件数の推移についての報告があった. 前回よりは 20 件近く増えたが、数年前と比べると減少している.

他領域との比較 (今大会)

今年次大会 (2021 年春) の講演件数の他領域との比較に関する報告があった. 口頭件数は領域 10 に比べてわずかに高いが、ポスター発表を含めると最下位の講演数であった.

概要集提出率について

今年次大会 (2021 年春) の概要集提出率に関する報告があった。前回、今回ともに 83%程度の提出率となっており、100%達成に向けて協力を要請した。

所属機関別内訳

今年次大会 (2021 年春) の講演者所属機関別内訳に関して報告があった. 昨年に続き広島大学が最も多く、次いで KEK、早大、の順であった.

他領域との合同セッション

今年次大会 (2021 年春) の他領域との合同セッションに関して報告があった.「大強度加速器・測定器の技術」の発表件数について確認するよう指摘があった. その他のテーマの発表件数は 17 件であった。

招待講演・チュートリアル講演

今年次大会 (2021 年春) の招待企画・チュートリアル講演に関して報告があった. 若手奨励賞受賞記念企画講演以外に主催の企画講演として 1 件、共催の招待講演として 1 件となった.

シンポジウム講演

今年次大会 (2021 年春) のシンポジウム講演に関して報告があった. 前年次大会 (2020 年春) では主催 0件, 共催 2 件であったが、今回は主催2件、共催3件と増やすことができた。尽力してくれた会員に対する謝辞と、次回以降も継続できるように提案の呼びかけを続けていくことを確認した。

若手奨励賞受賞記念講演

今年次大会 (2021 年春) の若手奨励賞受賞記念講演に関して報告があった. 前年次大会 (2020 年春, 受賞者 1 名) から増加して, 今年次大会では 2 名 (久保 毅幸氏 高エネルギー加速器研究機構、全 炳俊氏 京都大学)が受賞した.

例年応募件数の少ない状態（今回 6 件）が続いており、呼びかけを要請した。博士論文も審査対象となるため, 研究会メーリングリストまたはホームページを参照の上積極的に応募して欲しい. 応募期限は例年通り 7 月下旬とすることを確認した.

日本物理学会 学生優秀発表賞の登録状況

ビーム物理領域では前々回の年次大会 (2019 年春) から学生優秀発表賞の審査及び授与が開始している. 今年次大会 (2021 年春)は合計 24 名の応募があった.

来年度大会までのスケジュール

秋季大会までのスケジュールが確認された.「素核宇」は 2021 年 9 月 14 日から 17 日まで神戸大学 (鶴甲第 1 キャンパス) で開催され,「物性」が 9 月 20 日から 23 日まで東京工業大学（大岡山キャンパス）で開催される. 春季大会は 2022 年 3 月 15 日から 18 日まで岡山大学 (津島キャンパス) で開催される. 現在の所は現地での開催を予定している。

学会発表英語化の検討について

今までにも学会発表の英語化について検討の要請があり議論してきたが、今回改めて以下のような要請があった。

～物理学会事務局から依頼された内容の要点～

・領域 7 から「インフォーマルミーティングでシンポジウムの使用言語を英語に統一してはどうかと意見があがった」との報告があり、それを機に領域委員会で自主的に議論している。

・理事会で領域委員会で上がった内容を審議し、新たに以下の提案がまとめられた。今後はこの提案について各領域で次回年次大会までにインフォーマルミーティング等で意見を聞き，3 月末までにご意見をお寄せください。

-----領域委員会の意見を取り入れた 2020 年 12 月 12 日理事会提案----

1) 留学生や外国人研究者の参加者への配慮

2) オンライン会議での海外からの参加者の可能性を広げる

3) 学生への教育などの観点から,

・物理学会としては学会発表スライドの英語化を推奨する

・将来的には概要集を英語で書くことも推奨する

みなさんから寄せられたご意見を元に来年秋季大会の募集時に何らかの推奨事項を加えられたらと考えています。

これに対して議論した結果、下記の様な事項が懸念されるため英語化については必要ないという意見にまとまった。

- 英語化に伴い、学生参加の敷居が高くなり、参加者減が想定される。国外の参加者を増やそうとして国内の参加者が減れば本末転倒である。
- 学生への英語教育を物理学会発表の場で行う事に疑問がある。
- 物理学会は専門外の研究を聞く非常に良い機会であるが、英語での発表、特に専門用語を英語で出されたときに内容を理解できなくなると予想される。
- 英語化にしたときに、短い発表時間で内容が十分に伝わるのか大いに疑問。
- 日本の研究コミュニティのための物理学会であり、国際化を過度に推進することについては疑問。
- 国際的な研究会合は他に沢山あり、それに参加するので物理学会の英語化については意義を感じない。

<u>キーワードの追加について</u>

“「レーザー生成量子ビーム科学」というキーワードがあればレーザーを使った量子ビーム源開発をされている方々がビーム物理領域に申込できそうだ”という意見があり、キーワードの追加について検討を行った。発表件数を増やすという意味では合同セッションがいいのではない

か。高強度レーザーのプラズマ加速は領域 2 との合同セッションが既にある。応用を含めると物性も視野に入れて広げるかどうか、との意見が出た。合同キーワードとして合同セッションを追加する可能性も含めて、全 炳俊氏（京大）が調査を行い、4 月末までに結論を出して、合同セッションが妥当であれば今後の対応を検討することとなった。

[領域運営関連]

<u>執行部と事務局の確認</u>

ビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた.また 2021 年 4 月からのビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の執行部体制は下記の通りとなることが確認された.

<ビーム物理研究会>
会長: 栗木 雅夫 (広大)
副会長: 神門 正城 (QST), 鷲尾 方一 (早大)
<日本物理学会ビーム物理領域>
代表: 栗木 雅夫 (広大)
副代表: 神門 正城 (QST)
<事務局>
〒739-8530
東広島市鏡山 1 丁目 3 番 1 号
広島大学大学院 先進理工系科学研究科
加速器物理学研究室

<u>次期領域運営委員について</u>

領域運営委員の宮坂 泰弘氏 (QST) の後任として, 大阪大学産業科学研究所の松門 宏治氏が推薦され承認された. 任期は 2021 年 10 月から 2022 年 9 月までの 1 年間となる.

<u>運営委員の選出について</u>

加速器を主とする委員とレーザーを主とする委員を交互に選出する慣例について確認が行われた。今後、分野間のバランスを考慮して運営委員の選出を行うことを指針・ガイドラインとして明文化することが決まり、議事録がその責を担うこととなった。

運営委員選出のガイドライン

・次期運営委員を加速器とレーザー分野で継承して選出する必要はない
・加速器とレーザー、それら以外の分野も含めて分野間のバランスを考慮する

【参考】物理学会留意事項
・本会会員であること。
・インフォーマルミーティングでの承認を原則とする。（メーリングリスト等での承認でも可。）
・同一機関，同一地域から連続して選出することは，原則として避ける
・世代，専門分野等のバランスを考慮する。

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2020 の報告

ビーム物理研究会・若手の会 2020 は，ビーム物理研究会、ビーム物理研究会・若手の会の主催で、 2020 年 12 月 8 日から 10 日までオンライン Zoom にて広島大学加速器物理研究室のホストにより開催された．参加者は 93 名、発表 13 件（内、企画講演 2 件） であった．

来年度の研究会・若手の会について

ビーム物理研究会・若手の会 2021 に関して説明があった．次回のビーム物理研究会・若手の会は理化学研究所仁科加速器センターにて開催する予定であること（会期は未定），実行委員長は奥野広樹氏（加速器基盤研究所 副部長）であることが確認された．

[研究会運営関連]

若手の会の運営報告 (坂上 和之氏 東京大学 より)

ビーム物理研究会・若手の会の 1 年間の活動報告が行われた．会員数の状況、周囲の若手の方への入会打診の要請、公募採用案内 56 件、2020 年 7 月 7 日に行われた企画研究会、ビーム物理研究会・若手の会 2020 と若手発表賞に関する事項が報告された。

ビーム物理研究会の Web ページについて (佐藤 政則氏 KEK 加速器 より)

外部監視機関 JSOC(Japan Security Operation Center)より、KEK 加速器研究施設に設置されているサーバにおいて、「システムディレクトリ階層情報が公開されているページが存在する」との指摘を受け、2021 年 1 月 5 日～2 月 2 日までサーバへの外部からのアクセスが遮断された。今後も JSOC の指摘があるたびに数週間の Web ページ公開中止が起こるリスクがあり、可能であればサーバを機構外部に分けてはどうかと提案がなされた。

2-3. 日本加速器学会関連

第 18 回日本加速器学会年会のお知らせ

下記の内容にて次回加速器学会が開催されることが報告された．

会期: 2021 年 8 月 9 日 (火) ～ 8 月 11 日 (木)
後援: 群馬県, 高崎市（予定）
会場: 群馬県高崎市 G メッセ群馬
見学会: 実施しない予定

次回の総会・拡大幹事会について

下記の内容にて次回の拡大幹事会および総会が行われることが報告された。

・拡大幹事会

2021 年 8 月 9 日（月）～ 8 月 11 日（水）にＧメッセ群馬（群馬県高崎市）で開催される第 18 回日本加速器学会年会の会期中に行う。

・総会

2022 年 3 月 15 日（火） ～ 18 日（金）に岡山大学（津島キャンパス）で開催される日本物理学会第 77 回年次大会の会期中に行う.

以上